

2018 日本史B (久下) 授業プリント古代9 奈良時代の政治と経済 (後)

3年 組 番

※  は天皇、《 》は政権担当者

1 孝謙 749～58 聖武と光明子の娘 初の女性皇太子→即位(749)→聖武は上皇、光明子は皇太后に

749. 寺院の墾田制限を規定…貴族に比べてはるかに広大

2 752. 東大寺 3 大仏開眼供養… 4 菩提僊那<sup>ほだいせんな</sup>(インド出身の僧 736. 唐より来日)が「開眼」

※玄昉…筑紫観世音寺へ左遷(745) 吉備真備…九州へ左遷(750)→遣唐使(752-753)→九州へ(754-764)

橘諸兄…引退(756)翌年没 聖武…756年没。

《 5 藤原仲麻呂 》 6 南家出身(武智麻呂の次男) 7 光明皇太后の信任

8 紫微中台<sup>しびちゅうだい</sup>(皇太后のための機関)と中衛府(天皇の警護)の長官

a 9 儒教政治 <例>正丁の年齢を1歳繰り上げ、老丁年齢の1歳繰り下げ、雑徭日数の半減など

b 10 養老律令の施行(757)…藤原氏の権威強調

c 11 橘奈良麻呂 の変(757)→事前に察知して弾圧 多数の貴族が処分

諸兄の子 大伴・佐伯氏らと反藤原氏で共謀 拷問死(?)

12 淳仁 758～64 天武の孫 仲麻呂の縁者→擁立 ☆保良宮(近江国)を造宮

d 唐風政策 <例>藤原仲麻呂→13 惠美押勝 と改名

14 官職も唐風に改名 <例>押勝は太保(右大臣)から 15 太師(太政大臣)へ

760. 光明皇太后没→孝謙上皇と淳仁天皇の不和、道鏡の台頭 →勢力を失う

764. 16 惠美押勝の乱…孝謙側に破れ、仲麻呂一族は滅亡

17 称徳 764～70 ☆孝謙上皇が重祚 淳仁は淡路島へ流罪

《 18 道鏡 》 法相宗の僧 天皇の寵愛<sup>ちやうあい</sup> 19 太政大臣・道鏡→20 法王

a 仏教政治 <例>21 西大寺創建 22 百万塔の寄進

765. 加墾禁止令…23 寺院(と農民)以外の開墾禁止

b 24 宇佐八幡宮 神託事件(769)…「道鏡を皇位に」という神託?

→25 和氣清麻呂 らにより阻止

※770. 天皇没 →道鏡、26 下野薬師寺<sup>しもつけのやくしじ</sup>へ左遷

27 称徳 770～81 28 藤原百川<sup>ももかわ</sup>(29 武家)・30 永手(北家)らが擁立

天智の孫 聖武の娘を皇后、その子を皇太子に→のち流刑に

律令政治の再建…官職の整理、地方政治の肅正

772. 加墾禁止令を廃止 →面積制限撤廃 →31 初期荘園 (32 墾田地系荘園)の発達

東北…33 蝦夷蜂起の多発 <例>34 伊治<sup>これはるのあざまろ</sup>皆麻呂の乱[780] →桓武朝へ

## 初期荘園の成立と特色

※荘(庄)…本来は 開墾のために現地に設けられた建物(別宅・倉庫)のこと

時期 <sup>35</sup> 8～9 世紀

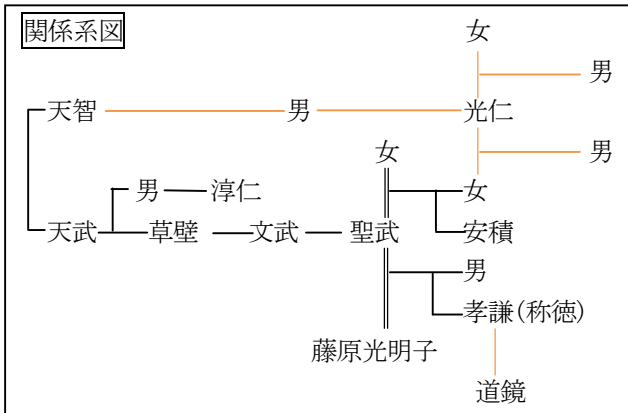
課税 <sup>36</sup> 原則として輸租

領主 東大寺などの<sup>37</sup>大寺院が中心→大規模開発・直接経営…中央から<sup>38</sup>荘宣を派遣

〈例〉東大寺領 <sup>39</sup>越前国道守荘(絵図面が残る)

労働力 (a)<sup>40</sup>家人や奴婢 (b)<sup>41</sup>浮浪 農民 (c)<sup>42</sup>付近の班田農民の賃租

限界 <sup>43</sup>国家の保護(国司・郡司の協力)が必要→律令国家の衰退により<sup>44</sup>10世紀頃には荒廃



正誤問題練習 <大学入試センター1996年本試験、1997年日本試験より>

- ① 墾田を集積した初期荘園の経営には、国司や郡司の協力があつた。
- ② 藤原仲麻呂は、淳仁天皇を擁立して権勢をふるったが、光明皇太后が没すると孝謙上皇と道鏡の勢力に追いつめられた。